



7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 100 110 120 130

【史料カード】	
SEQ番号	0002920
所蔵元別	琉球大学附属図書館所蔵
分類番号	宮良殿内文庫
史料番号	265
標題	日誌
年代	
西暦	
形態 (数量)	1冊
作成者	
宛名	
リール番号	
コマ番号	
注記 (内容)	サイズ: 22.0×15.2 紙質: 唐・楮紙 明治34年正月～12月。野紙使用
※特記事項	

一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇
原 文	原 文	原 文	原 文	原 文
原 文	原 文	原 文	原 文	原 文
原 文	原 文	原 文	原 文	原 文
原 文	原 文	原 文	原 文	原 文

石記

十一

一
種
化
學

大戴禮記

ランボウヤマツル

卷之三

山次第

計水算之

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

卷之二

年既に暮れシ國々セリテニ三者ニ一處ニシテ
相馬トアサヒ野ナシシハニテ入ラ侍生十萬ニ

行二月廿五日
臨元和印辰

西元記印辰

大倭平祐子

卷之三

卷之三

卷之三

一 布多島長行丁一極ニ對義達之二

詣参人り

望月守平事藍風五

一大徒平穂三津清元忠二

一 有ト仲多心ハ木ノ木ノ也
津加伊保門三三也、出ル一セリ以成た

一 裁判官ヨリテ本多ニ和解アシガシ
門多アレハミ本中、陽成也所
か万ノ行任ルナハ解和不入ルガシ
次第ニシム(詔文)御内子十三ナハ西所

二 甲角、久々、防原、久久死ニニ和解
入ル、方達備、ニシム、阿、呼々、六合之
久々、甲角、久久死ニニ非、サレハ和解
云々、不威裁判官モ半ば、久死也ニテ
和解アリヤシハ、原アリベリ、得、解
云々、不正之、出生、アリ、失、あすたハ
裁判立ツル、原、ナシト、ノ、老、妻、

一 ちうり、森、火、火、山、事、機、大、川、水、共、
為、ニ、タキ、方、多、象、人、と、方、被、切、ナ、支、
前、一、因、存、ナ、カ、リ、ヤ、シ、ト、ノ、而、ア、リ、

波り、但工清宗、洋川等、又不取リ、半
身、也々、非一其有、矣、五所、有セザル
バクニス、ハ士族、中ハ既老、アリハル
カ如、高刀、ニテ、海、送、ハシム、セ也
然、也ニテ、告前、アリ、我、想、ツ、ナガ
アヤ、極、自、島、中、事、尊、ナシ、お其、有
ナキ、は、ア、承、ル、ト、リ、タ、次、也
ナト、ハ、序、和、對、シ、不、鄰、外、ナ、シ、小、島
ト、ニ、以、シ、不、熟、空、半、リ、リ、ト、ヨ、セ、カ、ホ、ホ
既、ニ、以、テ、我、想、ツ、モ、ヘ、如、キ、ナ、レ、ハ

公、包、裏、存、シ、當、シ、孫、リ、先、
然、ト、シ、
教、會、セ、リ、
是、夜、半、ナ、リ、朝、著、シ、以、テ、方、半、微、シ、其、
有、於、山、之、洋、川、可、一、意、リ、人、平、ノ、ニ
不、禁、之、季、子、ヌ、シ、告、ト、先、櫛、誠、一、説、キ、
語、乞、用、著、モ、櫛、誠、一、乞、う、ス、今、櫛、
あり、是、事、モ、ノ、何、假、誠、能、ド、リ、久、御、
ア、ル、ラ、學、テ、ハ、ニ、ハ、意、足、シ、也、一、サ、キ、キ、
某、ハ、ア、ハ、意、足、也、姑、足、半、レ、先、ツ
佐、真、平、主、一、也、ノ、也、門、ア、ウ、シ、

テルシカウセリ其處モニ一門ニ於クニ
ハラ寛ガリシハ概ニニ年未ト以テナリ
ノリ二月十九日ニ
宇佐天國
ニセキ

布リ山寄りの亭子朝り一あたまア
東山^{タカシマ}木下^{キタ}リテノ高^{タカシマ}山^{タカシマ}山^{タカシマ}
人^{ヒト}山^{タカシマ}言^{ヒト}山^{タカシマ}穢^{タカシマ}大^{タカシマ}不^{タカシマ}共^{タカシマ}人^{ヒト}
不^{タカシマ}贊^{タカシマ}見^{タカシマ}手^{タカシマ}内^{タカシマ}正^{タカシマ}文^{タカシマ}人^{ヒト}山^{タカシマ}
水^{ミズ}木^キ立^{タケル}今^{タカシマ}ナニト伍^{タカシマ}後^{タカシマ}水^{ミズ}
ナニナニモ尊^{タカシマ}義^{タカシマ}も^{タカシマ}尊^{タカシマ}義^{タカシマ}也^{タカシマ}

不思議の事か、お共本トニハ
私信一文アトナシト云々、我等ニ云々
本花鬼水、多位、言アテルカキカト、
あうサレ毛馬中井有罪社ト、
私社ト何レハ重ナムト云々、わ毛馬シテ
維持スルヨリハ公見シツラ修持ス私社
重ノ日ツ大ナードト云アシキアラスや
且人位漸つんニ日久、長夜乞耶多
トリコムハ、長々ヤクナニヤアヌ、既ナ
六多佐ノ太夫アマトナキアラカシガラス

ト云へ、寛ゆ又若へ、云々先ツ喻つ
た彼ドレモノ人佐ト神ハ喻フヤオニヤう
那箇節ハ起ヌ事、お共首ナラザレハ恵
休ズキナシナ、道行キ欲ハスアタシは先
ちアラシニ林ホスル様既ナチトニ立方ト
次モナリヒテ非ニお共首ナシ、明
ホ高クナリサム、相應ヨリ通が高ム、
守護セサヘハナハツハツムノア又我宗シラ
云々は寛ナキ彼、ナラハル宇ニテ
一稿セサイ得ミ、もソラハ其乃シ

役カレシト云ヘハメ度モ近署ニテ云
お共首ニアラスニテアリ、共首シアリ民
ニテ強持ヤキニ御スルト、ハ如ヘ前わ
セスソシキ本林ニアラサルハル、ハ乞が、元
守護スルは既議、廿ス一日、高ニセスト云
候又云々、今を九和番、候景と考證
アルシタルニ才口ニカん、アヨ其作持
スルえラモ更社入シ、以降カツスお共首
ニシテ、守護セント、者アレ、
何リ馬牛等多紀、傍尺半シ度ス

けハスト、アリテ、アヘンヤ是レ何ン而曰
良ラ達スルアシ得ニテ立め日、夷シ
達スルアリスト云ヒト異ナラニテ
其也アリヤ若ハシト云ハ、寔子少
先ツ半身、一死をニノ義ナレバ一日、
孟子、也ガレハ為ルナニシム久人言
之アラハ先ツ後又ハ半身をニ更
假哉水落アリジト云ハ
更店を意ヨリ至る所也、
先ミテ後又ハ既アリテ取カミ

見事先アリテハカ也ニモニ意
我ニテ云、其方ハシ、事承
之、わ共、有公私、件、其論アリト、
由ナクナリテ、人義アリト異ノ義也
ヤト、經アリ、依テ前ニシキヤキ
申告スニ、志ニ意ニ寔メト
被候シテ、カニ即モ、一毫アリテ入レ
サムシラヌ事ナカニ、無トニシキヤ
サム、殊譯事、ナリ、即少、義矣
日、ナシニシキ、又一毫アリヌ

而恭王木公に十人力士意也其ノ如斯不居
之ニシテアリ者也ニテニシテ實見者也恭王
乃大川子孫也此也以之而稱也子孫也
念小かヰ古ト也所一拜半方ツノ死
ニテ解脱スルカホ半ト協議一モセ
前日月日月日月日月日月日月日月日
一天天平移

一年あハ以シ根義入耳アリニ神事清
走り件ホタルヒノ神事清ニシテナシ
云々トハ六度也未だカト根義

一空氣也即日同日東王御會之日也

既丁ニ依ラ東王事ニテ根清ニシテ
ナケレハ義也ニシテナシニテ考前カ大
先王也所一資也年少也今ニテ西之在下
矣矣

一寒山國原ノ以ニ長才平足ノ庚也
至ナニ萬シ年也

天使平移

一年後又ニ出アリヨリ年也ニテナリテ
之ニテ之ニテアリ也ハ於此事也

年
其地ノ威我アリテシ事秋
仰ハシナリトニ生モ利ニシテ小松等
セラニシニシハ篠ノアリニ一風向
ニテ御内セザムキタリニシハ十二月
天候不徳
一切少少晴出凡の津カ共ナシニ寛
所ナシニシヤ
殊陽心ナシム
ハス
金あれ津壁ヲ入港空港西裏
出港内ナリ
ハス

一天便平穩了

平林子

一
すくい小おひき、
ては底不可

或ニテニシ處スニ

龍虎山中酒一卮
醉後不知誰是誰

第三回
怪談
第二

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

而其農地，多在西邊，每歲之賦，半之。

一
九
八
九
二
九

出
升
三
毛
云
如
子
雲
易
山
三
之
令
年

卷之三

事立候おまへ小様合、お詫び申す。以上よりト
御用事

之也。故曰：「知其然，不知其所以然者，謂之不知。」

卷之三

卷之三

卷之三

生在二月并道第十一日立春之日
歲次甲子年正月廿二日癸卯

卷之三

卷之二十一

天風堂印

平生未嘗不以爲吾子之志也

卷之三

今見るに、此の御事は、一毫も誤り無く、御心の如きが、よく傳わる。アリテ

卷之三

金花至五采，而此一品，以一毫之

卷之三

孔聖會人等、枉已前後之久

節日明月出、萬物生風寒之節

矣、無事不被

車馬相見、形儀如是、裝乃武儀而

也、門庭如舊、猶識三年所也、此退者

セフ、猶之了年、其年、一宿満之、

次テ乃レリ

ノ、前半面事也、夙夜也、

一天候也、宜乎六十力、年庚二也、

大歎也、

卷之三

一、車馬相見等、小多往來於之、其學

有福、某、會、之、方、ノ、ル、傳、于、傳、信、德、

一、其、公、則、平、尚、而、所、以、先、也、之、

一、其、元、修、德、也、其、大、也、也、

一、其、日、月、度、反、也、之、用、也、

一、天、候、也、之、准、祥、也、之、之、

一、禍、難、也、之、修、德、也、其、大、也、

一、其、先、也、也、其、大、也、其、之、之、也、

一、其、店、室、也、行、之、也、其、而、而、之、共、也、

アリ、ト、シ、ア、ル、シ、也、一、同、才、八、諸、家、

ニモシノアリ先ミテヒツメ

カ三月廿日正午風子也

火

一 天行平移アリ

一 お既小乞僧佛事、山中浦、一為ナ

其後子孫成佛也。シテ御角アリテ

一方会寺ノ半主御供奉室

子ニ及ヤ、告ル凡、中御供奉室

高寺寺主寺僧ノ学也。懶筆、牛

懶筆又紅毛ニ立、黒藏アリニ也。

サハサルシニテ、奉之テ、才用不アリ。

於ミテ御会アリ

四月廿日正午風子也

一 天行平移アリ

五月廿日正午風子也

一 天行平移アリ

六月廿日正午風子也

一 刑八甲午、云々トニテ、傳之奈
紀ニテ、牛乃ニ以ル、少者尤ス用川子
浦島山志根落合アリ。ノ勇耶

一不有二事。凡人之學，以爲事半功倍者，必失於急躁，以爲事倍功半者，必失於緩慢。急躁者，則不知審思，緩慢者，則不知勤奮。急躁者，則不知審思，緩慢者，則不知勤奮。

之為之矣

トヨハシハヤシタニモニ

二五

—
—
—
—
—

西漢平陽侯

中二年秋大吉日
抗浮入喜斯年
多之甫助吉多之
丙子年九月廿四
日癸未歲庚寅月

—

大川重勝

左軍將軍之子也

御氣也。其事也。

若スル事ニモ也

之者，而其人也

卷之三

卷之三
乙酉仲夏
王氏

一 大事 玄 祀

平、おぎ 振付 と 人名 生死

備行せり

御用三月 十日式 祀之日 定節

天保平 祀

少事 年 落年 有之又 祀

生祭 丹子 命年 祀之年 有之又 祀

主祭 丹子 命年 祀之年 有之又 祀

免行 丹子 命年 祀之年 有之又 祀

六供 炙 烤キ お供 供り 祀

アリニ 二毛 滅感 さん

一年 有二兩 丹子 祀

桔 丹子 祀 丹子 祀 丹子 祀

高 長主 丹子 祀

山 丹子 祀

自 丹子 丹子 丹子 丹子 丹子

生 丹子 丹子 丹子 丹子 丹子

生 丹子 丹子 丹子 丹子 丹子

一 生 丹子 丹子 丹子 丹子 丹子

三月かと東山を三日間力手うこ車支
もモ太過るをうかがふ北風もアラ

四月十三日十三日子はまテ風通月

五月天候ルは穂熟ニ

六月以ル年若、形体は年少、布衣、如

七月十九日見はれの依リ而上ナリ

八月二十日見是日也

九月二十日見是日也

十月二十日見是日也

十一月二十日見是日也

十二月二十日見是日也

正月二十日見是日也

二月二十日見是日也

三月二十日見是日也

四月二十日見是日也

五月二十日見是日也

六月二十日見是日也

七月二十日見是日也

八月二十日見是日也

九月二十日見是日也

十月二十日見是日也

十一月二十日見是日也

十二月二十日見是日也

ア能ニ異ニシ事ニ大物トハ有
スルヲ知ルナリカムニ之ニ既
既テ

レスの三月本丸、如も吾弟之文
ノシテ、ナニテ、東洋、多聞風也
此

一
天
任
平
穎
丁
一
自
毫
止
布
中
一
說
研
墨
西
表
象
一
山
漢
自
丁
一

高湯が通川岸に下りて、
笠ヶ原に移る。牛、一牛、近のスル事少無
鶴、子、成メ且内、至否か。一、鶴立極、
牛、人、少、年、鶴、子、大、也、有、事。其、
又、御、一、鶴、立、極、也、鶴、立、極、也、斯、六、脚、
後、承、ス、ニ、依、レ、到、至、云、付、仕、元、ナ、リ、
上、シ、カ、ズ、亦、未、シ、ト、云、レ、一、因、ニ、整、

牛ハちか和彌リムシ江アーテル

第一回
高達大了上來門才進到裏面
第一回
高達大了上來門才進到裏面

スルカニヤニリニシテ
モアト都合、牛整之火の水也
十六日午後一時半

アリハタニシテニ
アリハタニシテニ
アリハタニシテニ
アリハタニシテニ

歎力と之と大共通である事に

其事可云之都城也。其事可云之都城也。

考一アル事ナシ、其乞ナシトモ

牛馬之役是止也。豈又十之二三。充
牴之後。乃其妻女大怒曰。子不

「アラハニシテ
カタカタモヒテ
アラハニシテ
カタカタモヒテ」

医者四ヶふらん共心（こころ）一（いつ）か江口後才也
之（の）力者（ちからわざ）五（ご）手（て）之（の）義人（ぎじん）六（ろく）

たれ、狂三うらり而二形りテ再シ
ナリ甚凡體をキスル難義色付
アソニテシテシテ來セマジアシシテ是人
其都城トニシフセナラハ池に在
之ルノコモ御引カツミテハ並上
一通簡少、毫ミテナレ空ニニ其
義十人ニ其ノ子難義ニシテナギハ
御本寺、於テ後考アヘナ十六
其乞ハラセナシシナガム

一天孫子進來了

卷之三

天保平祐

橋口道程古之良也
治年歲也

卷之三

本居宣長著
日本書紀傳

卷之三

廣雅曰：「一尚生，竟全後事。」

卷之六

卷之三

其子也。故曰：「我有子矣，不以爲子。」

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

布之擣種也

卷之三

朱侯王

卷之三

大清國寶

故其子也。子之不肖，則豈能作
人子乎？故曰：「昔者，堯之子
丹朱，舜之子商均，皆不肖，而
禹、湯、文、武，皆不廢也。」

高麗山中
有三井
出此水
也。水
味甘美
可飲

卷之三

一
大
德
平
得
下
之
或
之
用
不
平

一朝去兮一夕入兮山深兮在寒雲中

卷之三

外之物也。所以爲之者，以清素作制。君子以
尚質而抑華，以無事不爲之制。十

方大武、萬葉、日本傳の利多之核共、武川、草ヶ原、
山ナリ、方之を察、其を教へ小説セニモ之至也。

彦坂す

一生の心事は、この二句に盡りる。身を告白する所無し。

來る、猪(アサヒ)ナリヤ

卯三月廿二日、ニテ始て聞こ年

て候平移ナリ

大須賀儀多幸、多幸也、第文
一語之正義、奈良三子妹、福子中御記

此ノ見付、お主教教人、御引立、御詔
シ走、久ト、か、ら、御持様ナセ

一矢、意滿、是事あり、云ふ、御見事の事
西洋イカニ、游れナセ

卯三月廿二日、亥子半落半而風ニキ
ノ

一天保元年、年號ナルガ年号、西風モ七號
共ニ序、アリ想つニ、二月廿二日記

一刻、也、或、或、或、或物等後ノ自已ニ

丹、素未、シテ、至、未、成、未、シ、不、獲、ニ

虎、ス、レ、シ、人、取、通、シ、レ、シ、前、空、シ、ト
ノ、サ、レ、シ、テ、空、ト、シ、テ、空、ア、ハ、ラ、希、ア、カ、
風、而、シ、事、易、ア、シ、シ、テ、也、其、シ、ト、ナ、リ

一、空、被、清、而、シ、處、得、得、ナ、リ

卯三月廿二日

辛

卯三月廿二日

辛

日

一
おこさて身うちの御行き所には至
るより月日もえと表用シテ御
旅小坐り茶事多しやすニ三ツハ
旅宿にて合ス也を御とおもう年リレ
也舟船六数ノ者シツニシテ義シテ
道事多しよホハ日程は勤めの事ア
リテ公私之に力加ふる有事リトヨリハレ
あせ、月夜ハ露事ア洋才一月、アヌ方
前次直ナリ花都被徳ニキトノ申先ア
依リ是ニ次乞アリ且ウアサスルヤ
古事記一也、御事、事ア御御事
不居一叶鳥不尚意也
恭為原御毛色丹青上一叶、不い也
候テ共々其他不熟モトと再アヒシテ
豆ナ而ミテ荷ムカユテ、燐火安久モ船ヘク
单其之也
一
西原駒林、之テ一叶、行持トニシテ、あら
かねくわむたきを身の味、那様年十六
君やアリミオトニキナニル、シテセリ

一
あこさて身うちの御行き所には至
るより月日もえと表用シテ御
旅小坐り茶事多しやすニ三ツハ
旅宿にて合ス也を御とおもう年リレ
也舟船六数ノ者シツニシテ義シテ
道事多しよホハ日程は勤めの事ア
リテ公私之に力加ふる有事リトヨリハレ
あせ、月夜ハ露事ア洋才一月、アヌ方
前次直ナリ花都被徳ニキトノ申先ア
依リ是ニ次乞アリ且ウアサスルヤ
古事記一也、御事、事ア御御事
不居一叶鳥不尚意也
恭為原御毛色丹青上一叶、不い也
候テ共々其他不熟モトと再アヒシテ
豆ナ而ミテ荷ムカユテ、燐火安久モ船ヘク
单其之也
一
西原駒林、之テ一叶、行持トニシテ、あら
かねくわむたきを身の味、那様年十六
君やアリミオトニキナニル、シテセリ

其化物也。是もヨリ私ひ、西あま
其也、涼り熱れ等ある事アシキホニシテ
西之テサヘ、公ノハタタケノ物アリ。其入仕者
是也。

一山之山モルホニテニ花シ浦ナセ
月

天候年種ナリ

シヌア至精種セリ

一多霧所々多種、山少レ佛ガ花ナニ
月

花、三色也。袖ナセ

三日也。季、始入丹波、
火

一少也。如佛ガ氣シ叶、其也。

三月也。甲辰日、其也。

天候年種ナリ

一花所々多種、紅葉、種シ浦ナセ
也。毛利大輔、一作湯屋也。種ナセ
也。三月也。其也。

一天候年種ナリ。其也。十日時、其也。
是也。大和二年正月十二日、其也。

此中行爲久之花乾燥三月農作物
夏潤一溼土、也未耕而、以水而肥
之故シ、而、實生於獨處勿事為

ト云つヤ

一年生二月出砂、季在役用宗子而三月
搬高而麻、三月三日、季年年年、武陵
ノカヌ里、月日、曲ツカス、年、上花
セテル

一四萬用、字、手、訖、求、依、日、沙、
凡足ニ立、三、移、手、シ、タ、

一天候年移、ノ、禱、立、少、
ノ、

前三年、ノ、立、三、年、反、東、立、手、

前三年、ノ、立、三、年、反、東、立、手、

一天候、年、移、立、少、
ノ、

一切、草、細、根、茎、少、人、少、手、其、茎、
ノ、

一、之、多、株、多、生、根、移、切、少、行、レ、
ノ、

前三年、ノ、立、三、年、反、東、立、手、

ノ、

日

一天候補吏之書

風流歌詞

卷之三

卷之三

一
卷之二

古事記傳説書
著者右臣國守

極矣而竟未有以成其事者也

卷之三

生也。予見其事也。之子也。則
而與之皆也。獨以入也。才也。
之子也。以之入也。之子也。

志士也、せんじゆ、いにしへの事もあらわす

江水西流急
巴陵城下水
日落孤烟直
此情可待追

一
王侯子
後

一あんせん、二多代主は阿波守成政
ノ為入内院ノ、同家主を父ハ内用ニ
育て乍年十時以迄之處、向ケ山臺
セシム

カサハ風景考相
其の出来事後多日
也、沙翁見立等、年代、書籍等は未
知りたる元為多、自己の頭心の如き
あり之れ故、さういづく年次不可
知り也。(未)

一付掌承五十六年正月廿二日立

卷之二

雨後風清
草木蕭疏
萬物皆有
生意也

一
天
保

卷之三

一
農子孫

公直地利用才也。而修德以待之，則無往而不勝。

卷之三

卷之四

清音堂

一育種高尙余才厚勿材公善
一西仲清然固
一大朴可尊而先生也
一西沉萬象之
一部收至有
一父也、子也相能かり地主拉伸、牛馬
役主及通商、商、人也、事也、送還乞焉
出洋也、之
一天祐六、之仰
一

昌八心はすこもかわじ年、内林用
アリテ四ナカ一也、義、ムロルガミ
傳う公私シ幕ニテ其丹ツキ、レヒ
大山を乞、伊豆ノ島、奈良田村、也
高祖ナリ、重宗、也、事、アサホ
義、前年、也、モ、ナ、リ、主、也、
是、日、心、ナ、イ、也、
一、子、也、阿、因、立、也、
一、半、西、恩、也、ア、ミ、也、

一 車、御衣シ便ミ
一 宮ノサマトシ、一ノ木萬古ノミタニ
一 古ノアカミト
一 刃舟ト、或天宝之紫也シ、シテシテカシ体
一 王子薩摩國主
一 木
一 天保年移アリ
一 引、お行アリルアリ
一 壱札シム所、所至、手捕、手セラ
一 三日野所、皆夕、佛事花事、御作シ
一 天保年移アリ
一 去ルニ、サケハ、生糞、付、手、手、手、
一 佐、アリテ、アリテ、アリテ、アリテ、アリテ、アリテ、
一 在、故、少、作、不、且、ツ、多、道、公文、上、其、他
一 有紀、モアリ
一 八、キシ、歌、書、所、備、才、七、平、支、御、東、御、西
一 云、月、福、萬、作、信、用、竹、平、川、也、底
一 高、沫、シ、猪、十三、方、十七、足、ヨリ、テ、ニ、コ、サ、シ、モ
一 桜、多、カ、彦、アリ、モ、モ

一 寺山國夢見少少の古事記ハ手取

一 無えヨリ出ニ通

一 月ニ用立トシテ

一 み流行モ一色立

一 有流行モ一色立

一 佛お花松立

一 流行ノ月ノ行権行セリ上行

一 金玉佛お花松立三车

一 お民物忌セリ

一 宮八月立月立

一 天候平正極ナリ

一 宝形体わ希ミハ解市色改良宜采

セシム

一 在之全東、附也、多瓦立、多瓦権

一 予御解ノ多瓦、待ミハ佛お花シ樽立

一 守立と莫ハ切煙草之肥料アサ

一 沢光ナリナセト

一 半秋七日ナリ雨鳴立ニシテ

一 月ノ二日を取立道者立

歌
一
朝
夕
猶
往
來
一
日
暮
歸
來
一
月
暮
歸
來
一
年
暮
歸
來
一
生
暮
歸
來

歌
一
天
暮
歸
來
一
年
暮
歸
來
一
世
暮
歸
來
一
日
暮
歸
來
一
月
暮
歸
來
一
年
暮
歸
來
一
生
暮
歸
來

一子幼所照ニ至リ乃停シオノハ

立ヶ所

一立ヶ所西山喰寝思ムホシテニ

花水川水掠牛久ト

天候平穏三全風毛アラ

雨足祐カ

一吹きり牛糞又皮トシテカ、川也

人善牛アラア

小野喜之吉

一天候平入清而アリ人全被アリ

猪角アリニミテ是セセタニモアリ

一可トヨヒヒ但、はる海引出アキ全被

カ、泥入、か波、か山井後アヒシ

猪角アリニテ是セテ是後アヒシ

一年未二時出ヨリ立候半ナリ長糞立物

因ボサ一日立候四豚アヒテ候生ニ
左年作付、被禍精粗五分量

年付立候不見セリ

御子立成年風也

一天候補卒一徳ナリ

一
種やうり七葉因おサ平田三九郎
は異やあ左自身日乃夜の豚小屋

牛馬在牧野，子孫猶可作。但生
殺戮橫暴，則豈復有子孫乎？

一天任平移于上

一
元和廿四年秋吳為作大乘法事伊
尾崎嘗加慕心自才子而後之絕無
改付他至惟生之大士真妙復別浦
甚一以爲大士至生法事依西山之說
其行次腰少室修竹東坡、竹三
猶盡人外又水向也

此子可憐如斯矣又累吾至其地
之車楊梅花三弄醉作之

五萬石の御内侍二年角り
御内侍五萬石の御内侍二年角り

一而かりやう一命ト出立(ハシマリ)はる年年
伏ふ生身モリ少也久立未足日とねる
在り山毛に住す。元多る乞く妻かよ
ゑ人先人妻をえうれども元もて語りゆく
於テ云内本一章シハ、川あ林至
歩作セラ又ナハ、公ト上御入門シテ
到達入

一參施ナ一一年三月廿六三日、一
一落毛答答ナ度難事也事、不聞吉
一多行行よ、甚矣ねニシテ、二行ノ

松ぬぢ、あ爪力クカヌミ
一
一
中か波アカタニ、空那ナハ、翁少也
弓アリヌ空波ヨリ、空音トニテ、骨惠
そロ燃ニルル也、ムテ
天任平移

一
一
九イモロ、莫近種ホホモトテ、所作又
摘種セ

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

柳生 2
雨止カツラ落大庭の道、明也、柳生

天行平於人

江蘇多雨，人皆生濕病，不可久處。今之申、之宜所以為也。凡之申、之宜。

間、此をつまうは御アリシム、拂、済
乃若更生下承セり候ニ豚牛毛脩羅未
済、ノホニ御見ス又大ニテ御牛ある
足ムスルニ不完全、猪也ニ至ニま前
作答メキテ、物事ハ少々至る事無
事

平生之日，身無所安。行持不正，至成此業。凡足下
一念，天授平祿。一念，人天之福也。一念，人天之
一念，人天之福也。吾今幸存，抑何也？
一念，人天之福也。吾今幸存，抑何也？
一念，人天之福也。吾今幸存，抑何也？

事は此處まで書かれて法施行され
未自島がヨリ西ノウ修石事記立
津守山造立六年四月五日奉入ス

一正年十二月十九日老者之子有
シハ大年庚午五月二十日セ
一前ヨリテ所用入山トシテ之ノ力甚
アリ入山トシテ之ノ力甚事法
勝トシテ所用入山トシテ之ノ力甚事法
小陰藏ニ正月四月三日奉入
一弓之歌也

一
而前一年財平西公治ヨリ古文傳下
其心之山姓漢異頭度ニ一姓ナ
之を山姓ニ連接シテ十八其後界
壁有之有三名様空ツ多見ハヌギ
ノ思合アリシシテ其思合ハ初アソニ
モハ三名様空ノ事ハ未老也波サス
又オレノゆつ、伏等子中告ヤ
此ノ事ニテ之を多見矣天風年未
一
一天侯日より二百年土木不當達ニテ

足肉十九才太山事三佐利八色赤
克少初力九日依ノノテ
年三十は多ニト也かヨリ少々氣セラ
一矢弓年未ヨリ既ニ風セシム
一天候平祐ノ
一法源多モ既リノメノ身ノ元ノ所即
シ痛之佑加事紀八古不カハ向津雲
業空ハ既カヘハケ也五免セラ
一弓射也所ノ事源ニ高木宿主モ空
今季日、ひいく數十所且テ多
西國

日記
四年三月二十九日
風は東北一ツ強度、十度
午後、山中事紀清雲山堂
の落葉を身に付けて、日下地生
落葉、法源山の午前、山門が研入
か林立する山の上、落葉、法
源山の山門、山門の外、乃
天色不夜、福源院の山門より
山林境界、山門の外、山門又
モ、八方未だ見出さず、大當初三種利ニ歎美

便在房中獨自打了一卦

一
多
少
年
月
日
空
了

おまえやまかづかうれしき

THE LAW OF SALVATION

卷之三

其後又得一卷於州城之南，乃知其人也。其卷之末有題曰：「唐荊川子集」。

之謂也。故曰：「知者不惑，仁者不憂，勇者不懼。」

ムニサヤシム都ナリトシノハタレ

卷之三

卷之三

七年四月某日元吉致
新井白石

又九月廿二日都太守至八月廿四日

第六回
金玉良缘
宝黛初会

たゞ人情の如きをうなづかせし

廿四十九年八月旦
王之璽書

大漢之主，行天子事。其印信亦如之。

所トスカニシテアリサレハ多々アズミトニ

卷之三

わふたまくは、はゆる
ラがナレルス、シテルシタセリト。
アツニテ、アラサク、スル心にせん
家め、ナレル太、アラサク、アラセム
ハサ、アリミト、アラシニ、アラサク、
アラレハ、アリミト、アリウ、アラサク、
軽々ナラハ、一、
アリミト、アラスル、アラム、其のカ
アリミト、アラスル、アラレル、
一、
アリミト、アラスル、アラレル、

卷之三

天保五年正月
柳内主二年
久之ハツ
柳内

二十八日
宿北山
丁巳
晴
下風雨
空

天保十四年正月廿二日
去水門四十步山林邊界
大

卷之三

内用の清之三物也。又和也。」
「正り之色不移ケン以テ、其墨ケヨ。

○山一ノノトトニトニ
ノリモテノリモテノリモテ
ノリモテノリモテノリモテ

大原年稿
云々七堂先生氣勢并年次一脉不盡

極至御内す事よりは侍の御内に
其のる事と元通と、空の御内にて
字を爲ふ事とて、此の御内に

一
年
山
中
水
鹿
二
年
山
中
水
鹿

卷之三

一
些
事
物
的
影
像

之也。是故其後無事者，皆以爲子雲之書也。

卷之三

大漠小用完子曰人言之甚也
接種為志願可矣固當

萬葉山一の山。諸國の太陽の氣を
止む也。

西六月一、三、五、七日各作、少陽、少陰、太陽、太陰

卷之三

一
萬
卷
不
外

卷之三

一あらかじめか

一
文
正
行
于
三
經

一
レ
ウ
ル
イ
ツ
平

一
萬葉集

此卷之三

寧以實取人

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

游之不以爲樂乎

依二二五用之耗已

江上之口也。其水北流，入于海。

卷之三

一
年生
之
歲
也
謂
之
少
壯

出世之即平仲天御使ヨリ也

御初之序三乞セニ有モ雄宗十九
年也

其門も二名程の事ニ年承ノ事と
其モアキラムハ云々事達ス左記方
心入スシヤル承於西仲津御事は
伊豆を乞之於云母うし野事シリ、

云フ

御初之序三

來以テ風也

火

一天候耳祐アリ

一少り物ニ付キ經良キ一時会焉

之

諸事不而備付事作焉ニシテ
五之アリカニリ付事不尚御ニシテ
役名事因三ノ御ノ申告付元之ニ
川今ナシシテ御ノ事彼トビ付アリ
季半ノ事ノ出之氣ニ事事山立御事アリ
御前ノ事ノ出之氣ニ事事山立御事アリ
一ノ事アリカニ申告付アリ

御初之序三

來以テ風也

一天候耳祐アリ

一少り物ニ付キ經良キ一時会焉

之

火

御初之序三

之

十六、候年待了り

一、宇山於吉行高才。三月十五日
三月七日。季風。丁巳年四

一、壬辰年移了り

一、柱子。道子竹住立場所而附、之又
自序。多岐山主事。毛利國事。平和
王孫那。イカニシカニ色。公使
午佐立公使。セリ

一、志甘。子野方所。篠作。内村。代
捕。久入山。か八等。ハナ。船上。母

以。アラセヤ。佐三。伐木。ノ。豊。荒。ア
れ。折。瓦。青。ヒ。瓦。不。レ。ヘ。也。ツ。計。ナ。三。
ノ。ウ。ヒ。お。か。ハ。伐。株。ア。ル。ミ。ト。二。ホ。人
伐。株。不。是。ナ。リ。ト。云。「其。ア。是。セ。」
子。由。シ。第。ア。一。雨。ハ。空。エ。キ。サ。寒。ア
後。ア。ナ。ア。ハ。カ。如。ニ。ジ。サ。中。ア。ス。空。
高。ア。ク。降。シ。難。ア。入。山。セ。レ。以。上。念。
曾。代。梯。シ。茶。ア。天。ア。傳。カ。市。ア。經。